

# 未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員 指導課 特別指導員  
岩波 英一

## 「理科室のおじさん」を訪ねて

### その19 日立市立大みか小学校



日立理科クラブ

宮下邦夫さん

日立理科クラブ「理科室のおじさん」、宮下邦夫さんを訪ねました。宮下さんは、坂本小学校にいるお孫さんから、坂本小学校の理科室のおじさんの存在を見て、宮下さんに「理科室のおじさんをやるといいんじゃない。」と、言われたのがきっかけの一つだったそうです。出身は、北海道札幌市の東区で、苗穂駅や札幌ビール園の近くだそうです。当時、通っていた中学校は1クラス60人近くおり、学年10クラスの大きな学校で、とにかく生徒が多かったことが印象に残っているそうです。「札幌大通り公園の雪祭りは、今のような一般の観光客はほとんどいない状態でしたが、中学生として参加し動物の雪像を作ったりして楽しみました。」と、当時は懐かしんでお話していました。「今

でも、ときどき北海道に帰ることがありますが、北海道に戻ると、札幌ラーメンの味が恋しく、食べるのを楽しみにしています。ラーメンの名店がたくさんありますよ。」と、札幌のおいしい味を思い出したようです。

宮下さんは日製に採用され、新採約500人が一堂に集まった約1週間の集合研修および2か月の工場実習の後に日立研究所に配属になり、最初は日立工場内の日研分館に勤務しました。その後、日立研究所の本館に勤務が変わり、主にモーター(小形)の研究開発に従事したそうです。宮下さんは、返仁会の会員でもあります。返仁会とは、博士号の持ち主の会です。博士号取得は、モーターの回転センサーについての研究です。「ロボットの操作やプリンターの印字など、用途によっては高精度なモーターの速度や角度制御が求められ、センサーが重要な役割を果たします。このような用途に使用できる新しい方式のセンサーの開発が認められて博士号を取得できました。こんなものがほしい。こんなものがないかというニーズに答える研究開発が、私たちの仕事でした。そんな中での研究開発でしたよ。」と、さりげなくおっしゃっていました。

理科室の掲示物や備品など、とてもきちんとした環境に整えられていて、「理科室のおじさん」の存在を訪問の度に痛切に感じております。実験の準備や片付けなどを中心に作業を行い、休み時間などに理科室を訪れた子どもたちとの「科学のおもちゃ」を通しての会話を大切にしているとのことでした。「とても元気の良い子どもたちが多く、科学の不思議さなどに興味をもてるように工夫したいですね。」と、子どもたちの可能性を楽しみにしている様子が伺えました。

若いころは、草野球(部対抗の野球)に所属し、ピッチャーやサードの守備に汗を流して楽しんでいました。体を動かすことが好きで、最近はゴルフをして体を動かしているとのことでした。

科学のおもちゃ  
展示

備品の整理整頓

— 問い合わせ先 —

TEL 0294(23)3231 FAX 0294(23)3230

IP 電話 050(5528)4928 内線電話 8954

E-mail:hakubutsukan1@city.hitachi.lg.jp

日立市郷土博物館 岩波 英一